○臺紙ノ大キサ

腊葉ヲ貼ル臺紙ハドンナ大キサノガ最モ合理的デアルカト云フ問題ニ就イテ考ヘテ見タ。現在普通一般ニ使用サレテ居ル四六判全紙ハ大體 760 mm×1091 mm デコレヲ 8 ツ切リシテ 380 mm×273 mm ノ臺紙ガ 8 枚トレル。コノ大キサハ大概ノ方ガ使ツテ居ラレル寸法デ截チ屑モナク極メテ合理的ナモノデアル。所ガ東京帝大理學部植物學教室デハ標準寸法ヲ 435 mm×320 mm トシテ裁ラセルノデ四六判全紙カラ僅ニ 5 枚シカトレナイソシテ多量ノ截チ屑ガ出來ル。併シコノ不經濟ナ大型判ハ大英博物館其他各國ノ腊葉館デ採用シテ居ル型ト大體同ジ寸法ダト云フ話デ、日本ノ日刊新聞 4 ツ折ニホヾ等シイ。其他各人ノ好ミニヨツテ種々ノ寸法ノモノガ用ヒラレテ居ルガ、大概縱 400 mm—430 mm, 横 280 mm—300 mm 前後ノ様デアル。ソコデモシ今カラ腊葉ヲ始メヨウト云フ方ハドウ云フ型ヲ取ルノガ最モ賢明ナヤリ方カト云フ事ニナル。何百何千ト整理スルノデアルカラ途中デ大キサガ變ルト取扱ニ非常ナ不便ガ起リ、又人ト交換等スル様ナ場合ニモアマリ型ガ違フト雙方迷惑スル事ニナルノデアルカラ、成ルベク判リ易イ寸法デアル事ガ必要デアリソノ上截チ屑等ノ少イ經濟的ナモノデナイトイケナイ。ソコデ私ハ商工省ノ標準規格 A 列 3 番ヲ臺紙ノ標準寸法トスル事ヲ提唱シタイ。コノ大キサハ 420 mm×287 mm デ現在ノ型カラ見ルト少シ縱長イ感ジガスルガ大體ノ寸法ハ現在ノ種々ノ型ノ大略平均値ニ近イモノデアル。御承知ノ様ニコノ標準規格ハ產業合理化ノ一端トシテ事務能率ノ增進、經費節約等ノ目的ヲ以テ商工省臨時產業合理局用紙標準化委員會ニヨツテ決定ヲ見タモノデ、總テノ紙ニ適用サレ、各種ノ證券ヤ商業用ノ用紙、書籍等モ漸次コノ規格ニ從ツテ作ラレテ來テ居ルノデアル。コノ A 列ト云フノハ面積 1 平方米、縱横ノ比ガ $\sqrt{2}:1$ ニナルモノヲ 0 番トシ、ソノ半分ニ切ツタモノヲ 1 番、ソノ半分ヲ 2 番ト云フ風ニ稱ヘ 12 番マデアル。コノ場合何番デモ縱横ノ比ハ何時モ $\sqrt{2}:1$ デ變ラナイ。コレヲ黃金分割ト稱シ矩形ノウチデ最モスマートナ型ト云ハレテ居ル。コノ A 列ハ日本ダケデナク世界各國デ採用サレテ居ル標準規格デアル。B 列モ同様ニシテ面積 1.5 平方米ノモノガ 0 番トナリ 12 番マデアル。併シ一ツ殘念ナ事ニハ規格ガ定メラレテカラ日尙ホ淺イ爲規格判ノ紙ヲ扱ツテ居ル紙屋ガ未ダ非常ニ少イノデコヽシバラク截チ屑ガ出來テ不經濟ニナルノハマヌガレ難イガコノ不便モ數年ノウチニハ解消スルト思ハレル。又紙ノ厚サハ今迄ハ 1 連 (全紙 500枚) ノ斤量ヲ以テ表ハシコノ紙ハ何斤ダト云フ様ニ稱ヘタガ、標準規格デハ 1 平方米ノ紙 (卽チ A 列 0 番) 1 枚ノ瓦數ヲ以テ表ハシコノ紙ハ何瓦ダト云フ風ニ稱ヘル。東大ノ植物學教室ノ臺紙ハ 115 斤ヲ使ツテ居ルカラ約 125 g 位デアル。ツイデニらべるハ現在 120 mm×75 mm ノモノヲ使用シテ居ルガコレハ A 列 7 番 (105 mm×74 mm) ニ近イ。

(伊藤 洋)

○北出雲産ひるむしろ屬

北出雲ニハ大キイ宍道湖ヲ有シ、又用水池ヤ小川ニ惠マレテ居ルノデ、水生植物ノ種類モ可成アル様デス。松江市附近ノ湖ヤ池ヤ小川等ヲ私ガ覗キ廻ツテ採集シタ水生植物中ひるむしろ屬ニハ次ノ 10 種產スルコトガ分リマシタ。卽チいとも (*Potamogeton Berchtoldii*

FIEBER)、えびも (*P. crispus* L.)、(*P. distinctus* BENN.)、おほばのひるむしろ (*P. Fryerii* BENN.)、まれーひるむしろ (*P. malaianus* MIQ.)、ささえびも (*P. nipponicus* MAKINO)、ほそばみづひきも (*P. numasakianus* BENN.)、やなぎも (*P. oxyphyllus* MIG.)、りゅうのひげも (*P. pectinatus* L.)、ひろはのえびも (*P. perfoliatus* L. var. *japonicus* NAKAI) ノ諸種デ、此等ノ標本ノ大部分ハ京都帝大ノ小泉博士ト大井學士トニ御檢定頂イタ物デスガ、今後精査スレバマダマダ種類ガ加ハルコトト思ヒマス。　(林　實)

○たちみぞかくしノ分布北上

臺灣北部ニ本種(*Lobelia trigona* ROXBURG)ヲ産スルコトハ山本由松博士ノ報文ニ明カデアル。莖ガ直立シみぞかくしトハ大分趣ガ違フモノデ印度以東南支ニ分布シテ居ル。先日東大醫學部藥學教室所藏ノ標本ヲ一二見タ內ニ沖繩本島、嘉手納(カテナ)デ緒方正資氏ガ採集サレタ本種ヲ見出シタ。臺灣カラ琉球マデ一投足デハアルガ、分布ノ東限カト思ハレル。

Lobelia trigona ROXBURG; YAMAMOTO, in Journ. Soc. Trop. Agr. Taihoku **8**: 148 (1936).

Hab. Ryûkyû, insula Okinawa, Katena (M. OGATA, Maio 1923) Additamentum novum ad Floram Liukiuensem.　(前川文夫 F. MAEKAWA)

○臺灣ノいらくさ屬

從來臺灣ノいらくさ屬ハいらくさ其物一種ヲ産スルコトニナツテ居ツテ、一昨年出タ最新臺灣植物總目錄デモコノ意見ヲ記シテ居ル。シカシ我ガ教室所藏ノ標本ノ示ス處デハ臺灣ニアルいらくさハ內地ノモノデハナクテ全然別個ノ種類デアル。いらくさ (*Urtica Thunbergiana* SIEBOLD et ZUCCARINI) ハ葉ノ緣邊ニハ極メテ規則正シイ中形ノ鋸齒ガ並ビ、各鋸齒一個ハ鎌狀ヲナシテ前方ニ曲リ心地ヲナシ、且ツコノ緣邊ノ中央邊ニハ多クハ各側ニ一個或ハ二個ノ小鋸齒ヲ具ヘテ、全體トシテハ簡單デ端正ナ重鋸齒緣ヲ呈スル。鋸齒ノ數ハ各側 10 個內外デアル。然ルニ臺灣産ハ緣邊ニハ先ヅ各側 4-6 個ノ疎大ノ三角狀ヲ呈スル齒牙ガアツテ寧ロ淺裂トイフニ近ク、コノ齒牙ノ直線的ナル兩邊ニハ多數ノ小齒牙ヲ稍不規則ニ有シ、全體トシテハ疎大重齒牙緣デアル點デ皆一致シ又內地産カラ區別シウル。コレハ *Urtica fissa* PRITZEL ニアタルモノデアル。臺灣産ヲ *U. fissa* トスル意見ハ HANDEL-MAZZETTI 氏ガ 1929 年ニ彼ノ Symbolæ Sinicæ 中デ FAURIE 師ノ臺灣採品 No. 1411 ヲ本種トシテ居ルノト、GAGNEPAIN 氏ガ同年ニ LECOMTE 氏ノ Flore generale de L'Indochine ニ *U. fissa* ノ分布ニ臺灣ヲ加ヘタノトニ始ル樣デアル。H. MAZZETTI 氏ニヨレバ支那本部デ從來記錄サレタ *Urtica Thunbergiana* ハ皆誤リデアツテ、*Urtica fissa* カ或ハ同氏ノ新種 *Urtica silvatica* H.-MAZZETTI ト *U. macrorrhiza* H.-MAZZETTI デアルトイフ。*Urtica fissa* ハ四川カラ湖北、福建、更ニ臺灣ニ飛ビ、又西南方ハ Tonkin ニ迄分布シテ居ル。上記ノ GAGNEPAIN 氏ノ論文中ニ挿圖ガアツテソノ特徵ノアル葉型ガ一目瞭然デアル。モツトモ同圖ニ葉ヲ互生トシテアルノハ、ウツカリシタ誤描ト見テヨイ。いらくさモ